

♣	扉	より良い支援のありかた	仁茂田芳枝	1
♥	まなぶということ		小川 研	2
♠	今月の統計資料			4
◆	詩	その馬は見た	木村 和	8



特集

くり返す紛争

軍事化を進めてきた日本外交	河辺 一郎	10	
アフガニスタン	理由づけできる戦争		
問われる私たち	桐生佳子	14	
パレスチナ	紛争を起こさないためにできること	大澤みずほ	17
ミャンマー	独立以来の紛争を終わらせる	石川和雅	20
宗教の視点から	紛争や戦争はなぜ起きるのか	小原克博	23
まなぶ論壇	紛争はなぜなくなるならない		
他者への気遣いを忘れない社会に	赤木隆弘		
民主的な価値観だけではなくならない	狩野紀子	27	

◆私はこう考える

過ちの歴史から真剣に学ぶ姿勢が求められる

野中章弘

日本のうしろ 世界のうしろ

脱炭素社会の実現は、脱原発から

伴 英幸

異次元の子育て政策って、どんなこと

鹿倉泰祐

日銀総裁が交代 新総裁に問われるもの

北村 巖

第2特集

米軍にとっての台湾有事 日本にとっての台湾有事

伊波洋一

職場の法律相談 組合事務所を出てください

木村 壮

憲法 15 ウイルスと憲法

北川鑑一

◆ キャラバンサライ
◆ スポーツ時評
◆ メルボルン便り

◆ 経済を知ろう！
◆ 中国観看
◆ 北から南から

◆ センターと
みなさんをつなぐ

カット 野崎安希子

まなぶということ

暗いいま、うれしい報道

小川 研

悪いことつづきの昨今、うれしい報道に接するのはなによりの救いだ。まずは、『ミンスク合意はロシアを欺くため』。

「ドイツのメルケル前首相は、独紙デイ・ツァイトのインタビュでミンスク合意について、『ウクライナに時間を与えるために署名され、これによってウクライナは強くなることができた』という考えを示した」(AFP)。

米国はウクライナを戦場にしてロシアを叩くことを画策していたし、ドイツもフランスもそのことを知っていた……。

つづいては、『海底のガスパイプラインを破壊したのはバイデン』。

「ロシアの天然ガスを欧州に輸出するノルドストリーム（海底ガスパイプライン）で2022年9月に発生した爆発について、ピューリッツァー賞受賞記者のハッシュ氏はブログで、匿名の情報筋の話として、バイデン米大統領の命令を受け、米海軍のダイバーが爆発物を使用し

てパイプラインを破壊したと伝えた。ハッシュ氏は、21年に米国の最高レベルで破壊計画が策定されたと指摘。中央情報局(CIA)の作業部会がパイプラインに爆発物を設置する秘密作戦を作成したとした」(ロイター)。

米国はそんなことまで、戦争が起こる前から計画していたとは……。

そして『経済制裁でロシア経済は破綻』。「国際通貨基金はロシアの経済成長率はマイナス8・5%と予測した。だが数字はいま、別の現実を物語る。ロシアの通貨ルーブルは経済制裁前の水準。23年はプラス0・3%を見込む」(朝日新聞)。

最後にうれしい報道。『ブラジルのルラ大統領が『平和同盟』を提案』。

「まず戦争を終わらせなくてはいい。戦争に直接にも間接的にも関与していない国々のグループの創設構想『平和クラブをつくる——ウクライナへの武器供与や対露制裁に加わっていない中国、インド、インドネシアなどの名を示した』(読売新聞)。

抑止力を高めるばかりが安全保障ではない。それこそ積極的な平和主義！

(労働大学出版センター 代表)